

# Just Now

## I はじめに

寝屋川市は現在、英語教育特別推進地域の指定を受け、「英語を通じて、国際社会を主体的かつたくましく生きるために必要な資質や能力の基礎を育成する」を目標とし、全小中学校において「国際コミュニケーション科」を設置している。なお、小学校における年間授業数は、1・2年生は10時間、3・4年生は20時間、5・6年生は35時間である。

## II 英語を聞きたくする授業を目指して

「授業だから聞かなければならない」、「英語の学習だから話さなければならぬ」という姿勢で取り組むのではなく、児童たちが「楽しいなあ」「英語をもっと聞きたいなあ」「英語でもっと話したいなあ」と、感じるような授業になるよう心掛けてきた。そして、「友だちや教師との自然なコミュニケーションが生まれ、児童たちは、そのやり取りで英語を身につけていく。そんな授業が生きて、英語学習につながるのではないかと考え、取り組んできた。

## III 英語の歌を楽しむ(1・2年生)

低学年は音に対する感覚が敏感で、英語の音声習得には適している時期であり、リズム感覚も優れていることから、歌やチャントを使った活動が適している。この点から、低学年では歌やリズム遊び、ゲームなどの活動を楽しみ、英語への興味・関心を持つよう取り組んでいる。また、言語習得には十分な音声インプットが大切であることから、コミュニケーションを図る態度を育てるために、たくさん英語を聞く音声インプットを中心としたレッスンプランを立てている。

## 豊かなコミュニケーション能力を育てる英語活動の実践

岡本博子 Okamoto Hiroko  
清水麻未 Shimizu Mami  
(大阪府寝屋川市立桜小学校)

歌の導入では、まずCDを使い、ネイティブ・スピーカーの英語を聞かせる。振り付けがある場合は、歌を流しながらお手本を見せる。児童たちに絵や物を見せたり描いたりして、単語の意味や歌の内容を紹介し、歌に興味を持たせる。

次に、児童たちも一緒にリズムに乗って身体を動かす。この時、リズムをゆっくりにし、わかるところから口ずさむように指導する。そして、何度も同じ歌を取り上げ、児童たちが楽しんで歌えるようになるまで練習する。児童たちがプレッシャーなく歌えるようになれば、クラスを2つに分け、掛け合いで歌う。そして次にペアになり、掛け合いで歌う。

このようにして歌を通してコミュニケーション活動ができるよう取り組んでいる。

## IV コミュニケーションを楽しむ(3・4年生)

中学年では先の音声インプットに加え、友だちとの関わりを大切にし、積極的にコミュニケーションが図れる活動をめざしている。普段はあまり話さない、一緒に遊ばない友だちとも英語を通して関われるように工夫をしている。

パートナーを見つけ、お互いに「How are you?」と聞く活動をし、そのあとにジャンケンをしてコインを集めるというシンプルなゲーム「ジャンケンコインゲーム」を通して、児童たちはたくさんの友だちとのコミュニケーションを楽しんでいる。

ゲームの前にたくさんの友だちと会話をするこゝと、日本語は使わないこと、アイコンタクトを取ることなどのルールを確認することで、友だちと笑顔でアイコンタクトを取りながら活動ができていく。

普段は友だちに体の調子を聞くことはあまりないが、英語を使うことで、自然とコミュニケーション活動になるところが英語活動のメリットと言える。

## V 英語でクラフト・英語で作品交流 (5年生)

「服」の単元では、今まで習った英語を使いながら、「オリジナルの服を着た人形作り」を行った。そして単元の最後に、自分の作った人形を使ったコミュニケーション活動を行った。

### 【授業のながれ】

#### ① 服の英語を知ろう

- ・絵カードを見ながら発音練習し、意味を知る。(カルタゲームなどをする。)

#### ② 服クイズに答えよう

- ・たくさんの民族衣装を着た人たちの写真の中から、ALTの“She is wearing a white shirt.” “He is wearing green pants.”などを聞き取り、どの絵のことを言っているのかを当てる。また、その人はどこの国の出身なのかも当てる。

#### ③ オリジナルの服を着た人形を作ろう

- ・“T-shirt, please.” “I want two red hearts.”などの表現を使い、自分の人形に着せたい服や、服に付けたい模様の材料を取りに行き、オリジナルの服を着た人形を完成させる。

#### ④ 英語で人形の服を説明しよう

- ・自分が作った人形を1つ持ち、人形になりかわり、出会った友だちに“I’m wearing a red skirt.”と、人形の着ている服を紹介する。紹介し終わったら人形を交換し、次の友だちを探す。

#### ⑤ 英語でほめよう

- ・自分が作った人形を持ち、2人組になってお互いの人形をほめ合う。“I like your green shirt.”  
※言うことがなくなったら、服以外のことでもほめていいことにした。“I like your long hair.”など、たくさんほめ続けられた方が勝ちにした。

## VI 英語でクイズ大会・英語でクッキング (6年生)

「料理」の単元では、ゲームを通して児童たちどうして料理の作り方を説明したり、聞き取ったりしながら、料理に必要な英語を学習した。そして単元の最後に、実際に英語で作り方を聞き取りながら料理に挑戦した。

料理を楽しみながら英語に触れることで、「聞き取りたい」という思いを高めていけるように考えた。

### 【授業のながれ】

#### ① 料理に使う英語を知ろう

- ・“Are you hungry?”の歌を歌う。(歌にあわせて、歌に出てくる単語の絵カードを指しながら、食べ物の言い方を学習する。)
- ・絵カードを見て、料理の仕方と味の言い方の学習をする。

#### ② 料理の作り方クイズを作ろう

- ・“Onion, please.” “I want a potato.”などの表現を使い、自分たちのほしい材料のカードを取りに行き、グループで好きな料理のレシピを完成させ、発表練習をする。(好きな料理の作り方を英語で言えるように、並べたカードを見ながら練習する。)

#### ③ 料理の作り方クイズをグループで発表しよう

- ・クイズを解くために、“Is it hot?” “Yes.” “Is it a Japanese food?” “No.”などの表現を使い、クイズを解くヒントにするためのやり取りをする。

#### ④ ALTと英語でクッキング「スコーン作り」

- ・今まで習った料理に必要な物の名前や料理の仕方を聞き取りながら、スコーンを作る。
- ・“Put on your apron.”など、身支度を整えるところから英語で行う。次に、グループのメンバーが順番に“I want a ~.”のフレーズを使って材料を取りに行く。準備が整ったら、料理の一工程ずつを英語だけで説明してもらい、それを聞き取りながら作っていく。

※教室の前で料理の見本をやって見せないで、ALTの英語だけで授業を進めるようにした。

## VII おわりに

これらの「英語を聞きたくなる授業」の取り組みの中で、児童たちは確実に変わってきている。一番の変化は、知っている単語を手がかりにして何とか英語を聞き取ろうとする姿勢が出てきたことである。特に6年生では、「ALTの英語を自分の力で少しでも聞き取れたことが、英語学習の意欲につながっている」という感想が見られ、うれしく思っている。これらの取り組みで得た英語に対する自信を力に、これからも意欲的に学習してほしいと願っている。